

2024 年度学校推薦型選抜試験

小論文

注意事項

- 1 小論文の問題冊子には、課題と下書き用紙がある。白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。
- 2 別に解答用紙1枚があり、解答はすべて解答用紙の指定欄に記入すること。指定欄以外への記入はすべて無効となる。
- 3 解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号が誤っている場合や無記入の場合は、小論文の試験が無効となる。
- 4 問題冊子と解答用紙は持ち出してはならない。
- 5 試験終了時には、解答用紙を裏返しておくこと。
- 6 解答用紙と問題冊子の回収後、監督者の指示に従い退出すること。

課題

以下の文を読み、問いに答えなさい。

「ことば」は「くすり」です。

なぜなら、私たちは「ことば」に影響を受け、考え方や行動が変わることもあるからです。「ことば」は「くすり」にもなりますが、「くすり」は「リスク」であり、薬と毒と紙一重とも言われます。ポジティブな言葉を聞けばポジティブな気持ちになり、ネガティブな言葉を聞けばネガティブな気持ちになる。そうした単純な因果関係も「ことば」が持つ働きのひとつです。(中略)

薬と毒は紙一重と言いましたが、薬を過剰投与すると体が排出できず、害を与えます。同じように、「ことば」にも許容量があり、それ以上に受け取ってしまうと、脳は「ことば」を排出できません。すると他者の「ことば」が自分の脳内に溢れかえり、「ことば」同士が連鎖反応をするようにして結合し始め、本来は自分のものでなかったはずの「ことば」が脳を侵食し始めます。その時脳は、ウイルスに侵されたパソコンのように、見も知らない他者に乗っ取られています。(中略)

「これは痛みを和らげる薬ですよ」と偽ってただのビタミン剤を与えても、実際に痛みが緩和してしまうことがあります。これをプラセボ（プラシーボ）効果と言います。英語の placebo は、ラテン語の「喜ばせよう」に由来しています。ここから意味が転じて、気休めのための薬や処置、偽薬などの意味で使われるようになりました。

新しく使われる薬剤が世に出るにあたっては、臨床試験が行われます。その時に提出されるのが、実際の薬を投与する「実薬群」と「プラセボ群」の比較データです。そのデータを見る時、製薬会社の方はいかに実薬群の効果があつたかを力説してくれるのですが、むしろ私は、プラセボ群でも一定の効果が必ず出ていることに驚き、注目していました。実薬群で効果がみられるのは、ある意味では当たり前のことです。しかし、プラセボ群での効果は実薬群と同じような説明ができません。そこに、人間の自然治癒力が持つ新しい可能性すら感じます。薬の効果はもちろん大事ですが、プラセボ群での効果も同程度に追求する価値があるだろうと思うのです。(中略)

「ことば」は「くすり」だと書きましたが、その人がその人らしく生きるために、ことばの力を借りる必要があります。「ことば」により損なわれたとしても、「ことば」により生まれ直すこともできます。「あたま」と「からだ」、「あたま」と「こころ」、そして「あたま」と「いのち」がバラバラな方向へ動こうとしている時には、「ことば」の力を頼りに、そうした関係性を今一度組み替えてみてほしいのです。

出典：稲葉俊郎著『ことばのくすり』2023年 大和書房より抜粋

問題 著者が述べていることを踏まえ、医療専門職の「ことば」が持つ力について、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

下書き用紙

(下の矢印から横書きではじめること。)

	1			5				10					15					20	
→																			
5																			
10																			
15																			
20																			

(20×20)

(400字)

